

# HOT NEWS

平成22年11月24日（水）

## 島原市の広域防災訓練に協力 —雲仙噴火より20年の節目を迎え—

発信元

調査・品質確保課 調査係 水田

平成2年（1990）、198年ぶりに雲仙普賢岳山頂の地獄跡及び九十九火口から噴火がはじまり、平成8年（1996）6月3日の噴火活動の終息宣言まで、雲仙普賢岳の噴火災害は、地域住民多大な被害を与えました。

島原市は、雲仙普賢岳噴火災害から20年の節目を迎える今年、平成の噴火災害を含む過去の災害の教訓を活かすべく、島原市内全域を対象とした防災訓練を開催しました。雲仙復興事務所は、島原半島内の防災機関として訓練に参加しました。

平成22年11月21日（日曜）、島原市と地元住民をはじめとする各防災機関（国土交通省を含む21機関 約1,000人）が、安徳海岸埋め立て地で、災害対応の訓練を実施しました。

雲仙復興事務所は、ヘリコプターによる雲仙普賢岳山頂の現地調査、無人化重機による土砂移動、島原市長を交えたTV会議システムによる九州地方整備局への被災報告の訓練を実施し、降雨体験車、起震車、災害対策支援車（衛星通信車、カメラ車）や災害対策支援機材（ヘリテレ受信機、KU-SAT）の展示により、地元住民の防災意識の向上に努めました。



開会式 島原市長が防災ヘリで訓練場到着



島原市長をまじえ、九州地方整備局へTV会議による被災報告